

45 スマート農業技術活用促進総合対策

【令和7年度予算概算決定額 1,686 (1,212) 百万円】
（令和6年度補正予算額 3,525百万円）

＜対策のポイント＞
ロボット、AI、IoT等の先端技術を用いた省力化・効率化を可能とするスマート農業技術の開発・供給を推進するとともに、スマート農業普及のための環境整備を行い、スマート農業の社会実装に向けた取組を総合的に展開します。

＜事業目標＞
スマート農業技術の活用割合を50%に向上〔令和12年度まで〕

＜事業の内容＞

1. スマート農業技術の開発・供給

スマート農業技術の開発・供給を加速化する取組を支援します。

- ①重点課題対応型研究開発（民間事業者対応型）
- ②重点課題対応型研究開発（農研機構対応型）

2. スマート農業普及のための環境整備

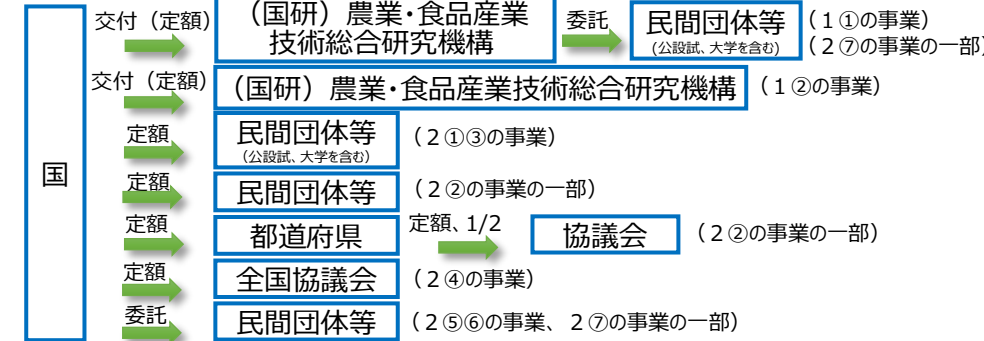
スマート農業を普及させるための環境整備を行います。

- ① 農林水産データ管理・活用基盤強化
- ② データ駆動型農業の実践・展開支援事業
- ③ 農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討
- ④ データ駆動型土づくり推進
- ⑤ スマート農業教育推進
- ⑥ 次世代の衛星データ利用加速化事業
- ⑦ スマート農業技術の活用促進に向けた協議会の設置・運営

（令和6年度補正予算）スマート農業技術開発・供給加速化緊急総合対策

本対策において、現場ニーズに対応したスマート農業技術の開発・改良、技術導入に向けた栽培体系の確立や技術の運用方法の標準化等の取組を支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

1. スマート農業技術の開発・供給

①民間事業者による
重点開発目標に沿った品目ごとの特性に応じた
技術の開発・製品化

【例】レタス収穫ロボット

②農研機構による
品目共通のベースとなる技術（基幹的技術）や
開発を促進する技術（基盤的技術）の開発

【例】ブドウの管理作業
ロボット

【基幹的技術の例】
汎用型ベース機

【基盤的技術の例】
AI開発用教師データ

2. スマート農業普及のための環境整備

①データ連携による
新たなサービス開発を支援

サービス事業者
サービス向上

②分析機器の活用
データ収集

生産性・収益向上に
結びつける体制づくり等

③ロボット農機（無人）

遠隔監視によるロボット
農機の安全技術等の検証
及び安全確保策の検討

④データ駆動型土づくり推進

データ蓄積
反映
AIによる診断
処方箋
効果検証

⑤スマート農業教育推進

オンライン講座、体験型研修

⑥衛星データの新たな
適用可能性の調査

技術の横展開の支援
・衛星画像の購入/解析
・利活用のマニュアル作成
・利活用事例の情報発信 等

⑦スマート農業技術の活用促進に向けた
協議会の設置・運営

生産方式
の革新
協議会
開発・供給
技術等の
供給

スマート農業の社会実装・実践

【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究推進課（03-3502-7462）